

大学生の力を活用した集落復興支援事業

最終報告書

2014年3月

福島大学現代教養コース
コミュニティ共生モデル
ビックブラックゼミナール

福島大学現代教養コース
ビックブラックゼミナール

葛尾村齊藤里内応急仮設住宅プロジェクト
「復興」は、ここからはじめよう。



【1枚目説明】

福島大学ビックブラックゼミナールでは、1年間のゼミ活動の一環として、今回の事業に取り組んできました。

ゼミのテーマは、「偉大な革命家になろう！」というものでした。

「お金の力」ではなく、「人のつながり」がもつ力で、私たちの社会が抱える課題を少しでもよりよい方向へ変えて行く学びと活動を、自分たちで創っていくことが目的でした。

今日は、葛尾村齊藤里内仮設住宅で住民のみなさんとともに創った1年間の報告します。

タイトルは、「復興は、ここからはじめよう！」です。

その意味するところが伝わる報告にしたいと思います。

葛尾村応急仮設住宅プロジェクト とは？

○福島県「大学生の力を活かした集落復興支援調査事業」

大学生グループが福島県の過疎・中山間地域にある集落の実態調査を実施し、集落に応じた活性化策を提案することにより東日本大震災等の影響からの地域の復興や振興を目的とした事業。

⇒私たちの課題

原発災害による避難のため設置された応急仮設住宅で「復興」とは？

○ビックブラックゼミナール

福島大学現代教養コース（コミュニティ共生モデル2年）、大黒ゼミに所属する計33人

今年のゼミのテーマは、「偉大な革命家になろう！」私たちの社会が抱える課題をとりあげ、「お金」の力ではなく「人のつながり」がもつ力で、少しでもよりよい方向につなげるための活動と学びを創るゼミ。

【2枚目説明】

私たちは、葛尾村齋藤里内仮設住宅で1年間活動してきました。

齋藤里内仮設は、原発事故によって全村避難となった葛尾村が三春町内に設置した10の仮設住宅のうちの1つで、現在、127名の方が避難し、住んでいます。

昨日の知事懇談の場で、他のグループの活動内容を聞いていると、多くの場合、「ふるさとの宝」を地域の振興や復興に活かす提案でした。

葛尾の方々のように、そのふるさとを離れざるをえず、本当に狭い仮設住宅で日々を送るみなさんにとって、「復興」って何なんだろう？

この重い、大きな課題は、仮設住宅を訪れるたびに考えていました。

葛尾村斎藤里内応急仮設住宅（三春町斎藤里内） —数字から見えるもの、見えないもの

葛尾村の人口

1508人

（平成26年1月）

斎藤里内仮設住宅

127名

斎藤里内仮設

65才以上の高齢者

58名

斎藤里内仮設

高齢化率 %

45.67 %

○地区ごとの避難

○買い物の不便

○お正月はどこで過ごす？

【3枚目説明】

この仮設住宅には、葛尾村の人口約 1500 人のうち、127 名の方が住んでいます。65 歳以上の住民は 58 名、高齢化率は約 45.7%で、高齢の方がとても多くなっています。葛尾村は村内の部落単位で仮設住宅の設置を行ったため、多くの方々が顔見知りで、いつ訪れても、みなさんが集まっておられます。

とはいえ、高齢の方々が買い物に出かけるには不便な場所でもあります。

12 月に仮設住宅でイベントを行ったときは、「お正月もここに残る」、という人が大変多く、仮設外の人にはなかなか見えにくい実態があることも実感しました。

活動の出発点で ぶち当たった難問

復興ってなに？（・・・）？

仮設住宅のみなさん（とくに高齢の方々）にとって**復興**とは？

はじめに報道/ニュースで調べたこと

「復興」という言葉が意味するものは何か？

【4枚目説明】

ふるさとを離れ、大変なことも多い仮設住宅で日々を送られるみなさんとともに、「復興」を考えて活動するというのが私たちの課題です。

この大きくて重い課題の前で、私たちが最初に直面したのが、「復興」ってなんだ？、ということでした。

テレビなど報道を通じて、「復興」という言葉を聞かない日はありません。では、復興って何でしょうか？

報道/ニュースに登場する 「復興」 —イメージのなかの復興

- ▶ 福島県にたくさんの人がある (→NHK大河ドラマ『八重の桜』)
- ▶ 福島県産の農産物が売れる (→「風評被害」の克服)
- ▶ 福島の復興道路/復興支援道路 (→「戦略的道路整備」の予算確保)
- ▶ 再生可能エネルギー開発巨大プロジェクト (→例: 洋上ウィンドファーム)
- ▶ 原子力発電所の廃炉 (→第1原発に続き第2原発も...)

⇒人それぞれの「復興」イメージ

⇒確かに福島県の今後にとって、どれも重要!

- ▶ しかし、それって.....?

【5枚目説明】

ニュースなど報道で登場する「復興」のイメージは、福島県産の農産物がたくさん売れるようになった、福島にたくさんの方が訪れた、再生可能エネルギーの巨大プロジェクトが始動した、といったようなものです。

どれも確かに、福島県の今後にとって、重要なことなのだと思います。

しかし…

私たちの疑問・・・！

— 仮設の皆さんと活動するなかで感じたこと

- ▶ 仮設住宅に住んでいる人（とくに高齢の方々）の日々の生活にとって、「イメージのなかの復興」がどんな関係があるのか？



- ▶ 「ふくしまから、はじめよう。」の出発点
「復興は、仮設住宅から、はじめよう！」



【6枚目説明】

そうしたことが、仮設住宅に住んでいる方々にとって、どんな関係があるのでしょうか。太陽光発電の巨大プロジェクトが動き出したことが、仮設住宅の日常とどんな関係があるのか、思いつくことはできませんでした。ほとんど何の関係も無いからです。

「ふくしまから、はじめよう。」とは、福島県が復興のスローガンとして広報で使うロゴです。

私たちなら、復興のスローガンを、こう設定したいと思います。

「復興は、仮設住宅から、はじめよう！」

これはいったい、どういうことでしょうか

私たちの考える「復興」
その出発点は...

仮設住宅に住む人たちが
以前の葛尾村での
日常生活を取り戻すこと

【7枚目説明】

私たちの考える「復興」。

その出発点は、「仮設住宅に住む人たちが、以前の葛尾村での日常生活を取り戻すこと」、に据えたいと考えます。

仮設の方々といろいろと話をしていると、かつて、日常に普通にやっていたことで、今はできなくなってしまったことがいろいろと出てきました。

そんな会話のなかから、私たちが目指すことが少しずつ見えてきたように思います。

原発事故や避難によって
できなくなってしまったことを、
再びできるようにしよう！



仮設住宅という困難な条件のなかで、どこまで可能か？
そのお手伝いをするを私たちの課題にする

【 8 枚目説明】

原発事故や避難によって、できなくなってしまったことを、再びできるようにしよう！

仮設住宅という困難な条件のなかだができることはあるはず、と考え、そのお手伝いをするを、私たちの課題とすることにしました。

プロジェクト3本を軸に活動

緑のカーテン
プロジェクト

4月

- ・プランターに苗植
- ・ナス、トマトの栽培
- ・収穫祭の実施

梅干し作り
プロジェクト

6月

- ・梅の調達
(会津若松、仙台市根白石中学校)
- ・梅漬け
- ・配布

お正月料理プ
ロジェクト

12月

- ・料理作り
- ・配布



アンケート/インタビュー調査実施（12月）

【9枚目説明】

4月以降、3つのプロジェクトを実施し、すべての活動が終わった後、インタビュー調査を行いました。それぞれのプロジェクトと調査を簡単に紹介しながら、そこから学んだことを報告します。

緑のカーテンプロジェクト

ー活動を通してみえたこと①







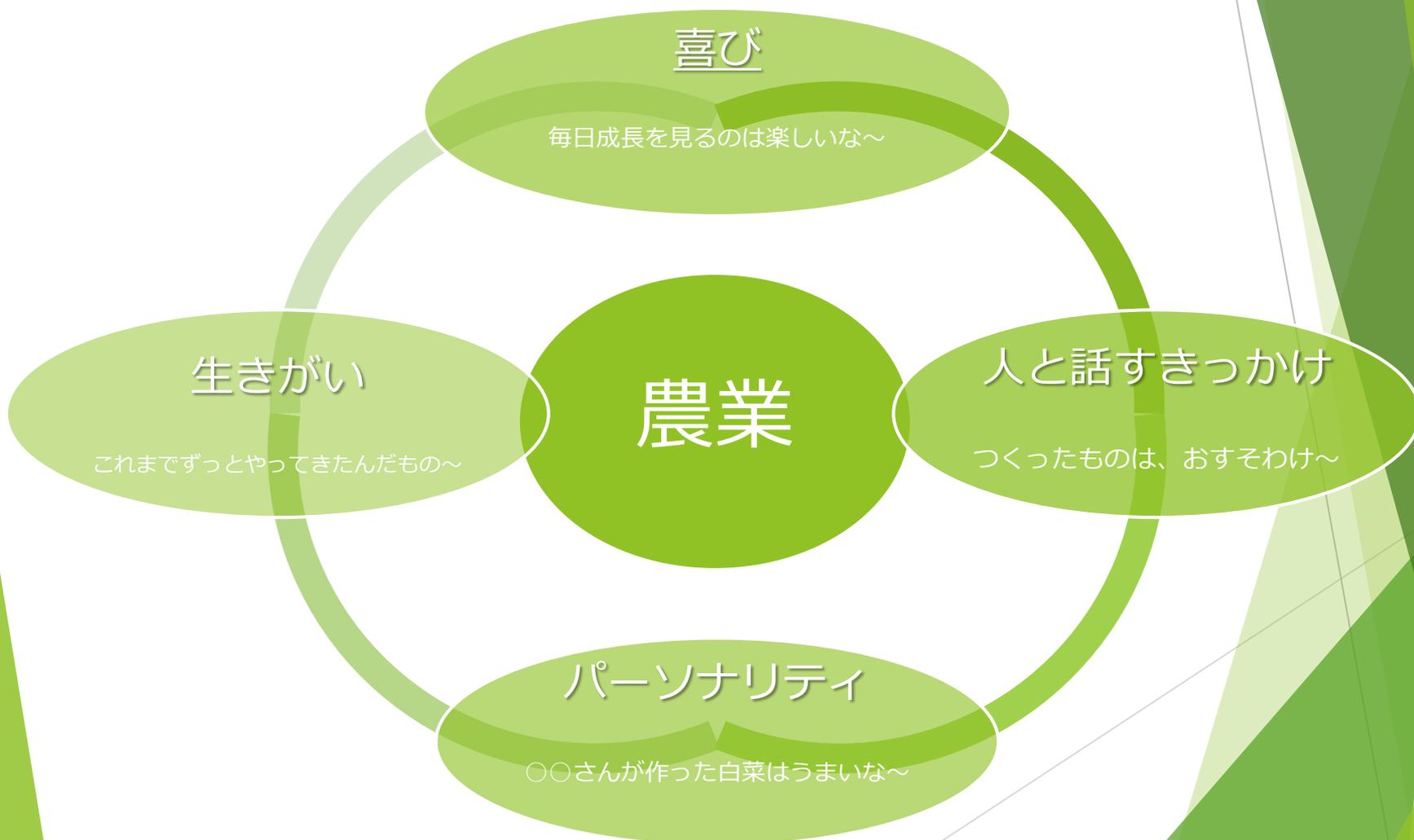
【10～12枚目説明】

まずは4月に実施した「緑のカーテンプロジェクト」。

仮設の皆さんが土に触れ、毎日育つものをそばに置いてもらおうと実施したのがこのプロジェクトです。みなさん、葛尾村では農業をやっていた、庭で野菜を作っていたという人たちばかりです。プランターではありますが、ナスやトマトを育てていただき、農業を少しばかり復活させました。

「農業」が果たす役割は大きい！

—農業の役割を取り戻したい！



【13枚目説明】

この活動のなかで学んだのは、日常生活のなかで農業が果たす役割がとても大きい、ということでした。農作業とはいっても、それを通じて得られるものはたくさんあります。喜び、生きがい、人と話をするきっかけなどです。「あの人の作る野菜はうまい！」という話も聞きます。農業は個性の表れでもあるのです。

梅干づくりプロジェクト

—活動を通してみえたこと②



【14枚目説明】

次に梅干づくりプロジェクトです。

震災前は、葛尾村の生梅とシソを使った梅干が、各家庭で普通に作られていました。震災後はセシウムによる汚染で、葛尾村はもちろんのこと、福島市や三春町の梅を使うことができず、梅干づくりはあきらめていました。なんとか、再び梅干が作れるようにしたい！ゼミの学生がもつ「人のつながり」をフルに活用して、梅を提供してくれる方を探し出しました。



【15枚目説明】

まず、会津若松市の農家のかたが、貴重な「高田梅」をほぼ無料で提供してくださいました。この写真はそのときの写真です。葛尾村のおじさんのように見えますが、これは僕です。



【16枚目説明】

高田梅です。大きいですね。

これ以外にも、宮城県仙台市の仙台市立根白石中学校のみなさんから、中学生が育てた梅を100キロ、こちらもほぼ無料でいただくことができました。こうして生梅がたくさん手に入ったことで、梅干作りもできるようになりました。



【17枚目説明】

この写真は、仮設住宅にあるステージを舞台に、土用干しを行っているところです。

人が集まるとなんでもできる！

— 「つながり」が生きる活動をつくりたい！

素材集めの

喜び

- 生梅は出荷停止
- 会津若松の農家
- 会津農林事務所の協力
- 仙台市根白石中学校の
中学生が育てた梅

作る

喜び

- 梅の塩漬け
- 土用干し
- 赤紫蘇の収穫と塩揉み
- 漬けこみ

食べる喜び

完成！

【18枚目説明】

梅干作りのなかで学んだのは、私たちのゼミのテーマでもありますが、「人が集まればなんでもできる！」ということです。素材集めも、梅干を作るための多くの作業も、一人では難しくても、何人か集まれば、必ずできます。そうしてつくった梅干の味は、また格別です。

お正月料理プロジェクト —活動を通してみえたこと③







【19～21枚目説明】

3つ目はお正月料理プロジェクトです。昨年末、葛尾村では、お正月の一時帰宅が認められていたのですが、それでも、お正月に仮設住宅に残る方が多いことを知りました。3年間の不在で建物が荒れていたり、寝具や飲食物などの運搬が大変なことがその理由です。

そこで、私たちは、仮設に残る皆さんが、それでも「葛尾村のお正月」を感じてもらえるよう、仮設の方々と一緒にお正月料理を作ることを計画しました。私たちにとってはなれない作業でしたが、次々と出来上がるお正月料理、色とりどりに盛り付けられた料理は、みなさんに持ち帰っていただき、とても喜んでいただきました。

きっかけがあれば、やってみたい

— できることはやれる、そのための「場」づくりを！

料理なら、いまでもできる！

家族のためにやってきたこと、近所の人たちと一緒にやってきたこと



必要とされるなら、いまでもやってみたい

お正月にも仮設住宅に残る住民の方々が大半...

お正月料理も、数人のためだけにつくるのは大変

みんなで作って、みんなで楽しんでもらえるなら、やろう！

【22枚目説明】

この活動で気づいたのが、「きっかけがあれば、やってみたい！」というみなさんの気持ちです。料理を手伝っていただいた仮設の方々と話をしていると、料理なら、家族のためにこれまでやってきたこと、みんなが集まるときは近所の人たちと一緒にやってきたことだから、なんでもないこと、という声を聞きます。「たいしたもんじゃねーよ」、といいながら、おいしい料理がぞくぞくと出来上がります。必要とされるなら、いまでもできる、やれる、やってみたい、という気持ちを感じました。

活動のまとめとしての アンケート/インタビュー調査

(12月実施)

- ▶ 質問①これまで葛尾村ではどのようなお仕事をされてきましたか？
- ▶ 質問②子供のころ、お母さんやおばあちゃんが作ってくれた料理で、好きだったのはどんな料理でしょうか？1つだけお答えください。
- ▶ 質問③(2)の料理は、今でも食べる機会が多いでしょうか？選択肢のなかから一つ選んでください。
- ▶ 質問④(2)の料理は、ご自分で、今でも作ることができますか？
- ▶ ☆質問④-1(できるとお答えした方に)その料理は自分以外に、誰に食べてもらっていますか？
- ▶ ☆質問④-2(できないとお答えした方に)その料理が作ることができなくなった理由は？
- ▶ 質問⑤(2)の料理のことを考えるとき、思い出す人や行事、個人的な出来事などはありますか？それはどんな思い出でしょうか？
- ▶ 質問⑦近所の方々や集落のみなさんと一緒になって、料理を作ったり、あるいは料理を食べたりする機会がありましたか？それはどんなときでしたか？
- ▶ 質問⑧私たちは今後、みなさんから、葛尾村の料理を学びたいと思っています。「こんな料理なら教えられる!」、あるいは、「こんな作り方を伝えたい!」と思われる技などがありますか？



【23～24枚目説明】

3つの活動を経た上で、最後にインタビュー調査を行いました。葛尾村の季節料理、伝統料理、また料理とみなさんのかかわりについて、とても貴重なお話を伺うことができました。

24枚目は、そのときの模様です。

アンケート/インタビュー調査 を通してみえたこと

▶ ありふれた葛尾村の日常生活が持つ力

日々家族のために作っていた料理の技

お祝い事やお葬式などで見せる集落の力

親子が繋ぐ食の技、野菜作りの技

子どもや孫のために、やれることはやろう

困った時は、お互いさま、「結」の精神で

.....斎藤里内仮設に避難している方々は、葛尾村のあり

ふれた「日常生活」のなかで培われた力を今でも

持っている

⇒ 「日常生活」を取り戻すことが、力となる！！

【25枚目説明】

この調査を通して感じたこと、それは、葛尾村のありふれた日常生活の中に潜んでいる力です。日々家族のために作っていた料理の技、お祝い事やお葬式の際に見せる部落の結束の力、野菜作りの技、困ったときはお互い様の「結（ゆい）」の精神…などなど、ここ齊藤里内仮設に避難している方々は、葛尾村のありふれた「日常生活」のなかで培われた力を、今でも持っている、ということです。みなさん控えめで謙遜されているのですが、見かけとは違い、とてもとても大きな力を秘めておられるのだと感じました。

だからこそ、そうした秘められた力を発揮してもらうために、仮設住宅において、「葛尾村の日常生活」を取り戻すことが大切なのです！

1年間の活動（3プロジェクト+調査） まとめ

①農業がもつ意義の
広さ・深さ

②人が繋がる喜び

④できるならやってみ
たいという気持ち

④日常生活に潜む力

【26枚目説明】

3つのプロジェクトとインタビュー調査で学んだことを
まとめてみました。

今後の発展を求めて 活動はどう組み立てられるべきか？

▶ 農業（とそれにまつわる作業）を活動の中心に...①②

農業は単なる作業ではなく、「生きがい」「個性」「コミュニケーション」「喜び」のきっかけ

▶ 仮設の高齢者は支援の「対象」ではなく、あくまで復興の「担い手」として.....③

自分でできることは、家族や集落の人のためなら、ぜひやりたい！

▶ 葛尾村の人々の日常生活のなかに潜む力を発揮してもらうことで、復興につなげる.....④

復興は仮設住宅の皆さんが「日常生活」を取り戻すことから始まる
復興は、ここ、仮設住宅からはじめよう。

【27枚目説明】

1年間の学びと活動を翌年度にどう活かすか、私たちの調査を通じて、今後の活動をどう組み立てるかを考えてみました。

まず、農業を活動の中心に据えたい、ということです。

2つ目は、仮設の高齢者が主体となる活動にしたい、ということです。よく、仮設の高齢者はボランティアなどによる支援の対象者、とみなされることが多いと思います。しかし、斉藤里内の高齢者は、支援の対象である前に、復興の担い手です。家族や集落のためなら自分でできることはやりたい、と思っておられます。

3つ目は、日常生活に潜む力を最大限発揮してもらうということです。

仮設住宅のみなさんが「日常生活」を取り戻すことで、力が生まれてきます。この力は、仮設の皆さんが持っている力であり、それが葛尾村、ひいては福島県の「復興」への原動力になるのではないかと思います。

来年度の活動企画 (現在検討中)

▶ 緑のカーテンプロジェクト第2弾

トマトとナスの苗を育てる

みなさんのトマトを使って、トマトアイスを試作

▶ 梅干し作りプロジェクトのさらなる展開

梅干し作り第2弾

味噌作り

凍み餅づくり.....そして葛尾に戻ったら、「ワイン」!

▶ 齋藤里内仮設ブランドの農産物加工品販売!

トマトアイス

梅干し

味噌

凍み餅

【28枚目説明】

来年度も引き続き、齊藤里内仮設の皆さんと一緒に活動と学びを続けていきたいと思えます。

緑のカーテンプロジェクトでは、トマトを作り続け、来年はそのトマトを使って、トマトアイスクリームを作りたいと考えています。

梅干作りも続け、梅干に続いて味噌作り、凍みもち作りと、仮設住宅で作るものを少しずつ増やして行きます。

そして…

みなさんとともに作ったものを、「齊藤里内仮設ブランド」の農産物加工品として、ぜひ県内外で販売したいと思っています！

必ず「販売」までこぎつけたいと思えます。

なぜ、販売にまでこだわるのか？

終わりに...

プロジェクト代表

千葉隼輔（岩手県遠野市出身）

に語らせてください！

【29枚目説明】

それは…

農作業をしているとき、できたものを近所の人たちと分け合ったとき、お葬式などで部落のみんなが集まって料理をつくる時、家族ためにおにぎりを握るとき、みなさんの個性が現れ、楽しみ、生きがい生まれます。仮設のみなさんの生きがいとなっていることの積み重ねのなかで培われた力、この表れが、トマトであり、梅干であり、味噌、凍みもちです。みなさんの生きがいを復活させること、それによって生まれたものを、仮設外の多くの方々に食べてもらい、福島農業と食の豊かさを実感してもらうこと、これこそ、福島農業復興への第一歩だと思います。仮設のみなさんの生きがいを復興に直結させる試みだからこそ、販売にこだわりたいとおもっています。

福島農業復興のために、葛尾村齊藤里内仮設の住民のみなさんの力を活かす道を探りたいと思います。



斎藤里内仮設から
はじめよう

Future From Saito-Satouchi

ご清聴ありがとうございました

【30枚目説明】

復興は、ここ齊藤里内仮設からはじめよう！
これを私たちの結論とさせていただきます。